目次

[第１章 【出　生】 1](#_Toc126253279)

[１ 誕生 1](#_Toc126253280)

[２ 両親 1](#_Toc126253281)

[第２章 【故　郷】 1](#_Toc126253282)

[１ 横浜市の成長 1](#_Toc126253283)

[２ 横浜中華街 2](#_Toc126253284)

[３ 山下公園 2](#_Toc126253285)

[第３章 【幼少から学生時代】 2](#_Toc126253286)

[１ 小学生時代 2](#_Toc126253287)

[２ 中学生時代 2](#_Toc126253288)

[３ 高校生時代 3](#_Toc126253289)

[第４章 【結婚・娘の誕生】 3](#_Toc126253290)

[１ 結婚 3](#_Toc126253291)

[２ 待望の娘の誕生 3](#_Toc126253292)

[３ 娘の紹介と成長記録 3](#_Toc126253293)

[４ 娘の学生時代 4](#_Toc126253294)

[５ 教育方針の違い 4](#_Toc126253295)

[６ 娘の結婚 4](#_Toc126253296)

[第５章 【退職後の過ごし方】 4](#_Toc126253297)

[１ 庭いじり 4](#_Toc126253298)

[２ 散歩 5](#_Toc126253299)

# 【出　生】

## 誕生

昭和20年9月21日、五人兄弟の長男として、横浜市根岸で生まれる。

昭和17年から日本本土への空襲がはじまり、ついに昭和20年に広島、長崎に原爆が投下され、戦争が終わった。私は終戦直後に生まれた子どもである。

「豊」という名前の名付け親は祖母である。貧窮していた時代なので、経済的にも心も豊かにという意味で考えたという。父も母も名前はあれこれ考えていたようで候補はたくさんあったようだが、祖母に名付け親の立場を譲ったようだ。

ただし、私の名前を決めた話には、後日談がある。「豊」というのは、実は祖母の初恋の人の名前だったらしい。

## 両親

父・日出男（ひでお）は大正11年、母・静子（しずこ）は大正13年に山口県で生まれた。父は六人兄弟の長男で、体も話す声も大きく、男らしい性格であった。野球が好きで、私をプロ野球の選手にするのだと、少々迷惑な夢を持っていた。そのため、幼いときから父とよく野球をして遊んだ。それに対して、母は五人兄弟の末っ子で、どちらかというと内向的な性格であった。私たち夫婦とは逆である。（言うとまた妻に叱られるが…）

父はとても厳しい人だったので、父の言うことを聞かないとよくビンタをされた。母はおろおろして見ていたが、父がいなくなると、あとでこっそり芋やかぼちゃを食べさせてくれた。

# 【故　郷】

## 横浜市の成長

私が生まれた頃から比べると、横浜もずいぶん変わったものだ。昔から港やおしゃれな街というイメージがあったが、「赤レンガパーク」や「クイーンズスクエア横浜」など家族や友達と遊びに行ける場所が増えた。私の年齢層を考えると、少々訪れにくい場所もあるかと思ったがそうでもなく、休日には意外と熟年層、家族連れが多い。

これからも新しいテーマパークやスポットができたら、どんどん足を運んでみるつもりだ。

## 横浜中華街

先日、久しぶりに横浜中華街に行った。今でこそ約二百軒の料理店が並んでいるが、私が生まれた頃はほんの二十軒ほどしか店がなかった。昭和47年の日中国交回復から、どんどん店が増えていって、現在のような横浜中華街になった。みなとみらい線に乗りながら、子どもの頃はじめて中華街に行ったことを思い出していた。大学生だろうか、学生がたくさんいて、楽しそうに話しながら肉まんを食べている。この世代の人たちの中で横浜中華街の変貌ぶりに思いをはせる人はいまい。

## 山下公園

娘が子どものときによく行ったものだ。懐かしいので久しぶりに行ってみた。公園内をぐるりと散歩した。しばらく歩いたあと、「赤い靴の女の子」の像に、お久しぶりと挨拶。赤い靴の女の子は今日も膝を抱えて座り、横浜から海を見ている。

近くのベンチに腰を下ろしていると、母と子がジュースを飲みながら話していた。「おかあさん、なんで空は青いの」「なんで夏は暑いの」と子どもが聞いている。「なんでなんで」攻撃だ。この年頃の子どもはよくこの手の攻撃を仕掛けてくる。おかあさんは、子どもの夢を壊さないように言葉を選んで答えていた。一生懸命な横顔に「ご苦労様です」と心の中でつぶやく。でも、我が娘の「遊んで！遊んで！」攻撃はもっと強力だった。あれには本当にまいった。

# 【幼少から学生時代】

## 小学生時代

我が家は裕福なほうではなかったので、幼稚園には行かなかった。そのため、集団生活は小学校が初めてであった。

家から徒歩十分くらいのところにある「日の出小学校」に通った。校庭は広くも狭くもなく、隣の中学校の校庭とつながっている。当時、ベビーブームだったせいだろうか、私が三年生ぐらいのときに教室が足りなくなり、校庭にプレハブ小屋が建てられた。私たち子どもにとっては、そのプレハブ小屋の教室になった子がうらやましかった。今、思い返してみると、校舎に比べてかなり簡単な造りで、夏は暑く、冬は寒くていいと思えるところはひとつもない。しかし、当時の私たちには、まるで子どもたちだけのお城のように思えた。子どもは何をうらやましがるかわからないものだ。

## 中学生時代

中学は小学校の隣の「朝日中学校」に通った。小学校からの顔見知りが多いので、人見知りをする私でも、友達を作るのに苦労しないのが嬉しかった。

勉強はあまりできるほうではなかった。親から受け継いだものが少ないから期待できない。そう言ったら早速、父に叩かれた。

父もあまり勉強ができるほうではなかったらしい。孫の私をかわいがっていた祖父が通信簿をこっそり見せてくれた。父よ、これでは無理だ。トンビが鷹を産むなんてことは、めったにない。

父の影響で子どものときから野球ばかりしていたので、中学校では野球部に所属していた。普段は「勉強しろ」と厳しく言う父も、野球に没頭している姿を見ると黙っていた。

## 高校生時代

父の協力のおかげか、野球で才能を発揮し、スポーツ推薦で「柳第一高等学校」へ入学することができた。野球の名門校で、私が在学中も甲子園に二度出場した。そこで、高校時代は野球一色の毎日を送った。甲子園での経験は一生の思い出である。その後、大学には進学しなかったので、高校生の三年間が最後の学生時代であった。

# 【結婚・娘の誕生】

## 結婚

二十三歳のときに結婚した。妻は小学生からの幼なじみだった。よく言えば、気心知れた仲で安心できるのだが、私の子ども時代も知っているのでたちが悪い。父親に叱られて泣いたところやドブに足を突っ込んだところも見られているのである。

## 待望の娘の誕生

結婚して二年が過ぎた頃、そろそろ子どもが欲しいという話題によくなった。その頃弟のお嫁さんが二人目を出産したので、親族でお披露目会を開いた。一姫二太郎、まさに理想的。妻は弟夫婦をとてもうらやましがっていた。

そんな私たち夫婦も結婚三年目にして、やっと娘が誕生した。絶対自分に似ていると思うが、妻は「私に似ている」と言い張る。

## 娘の紹介と成長記録

名前は優子。私の母が優雅で優しい子に育ってほしいという意味で名付けた。

昭和46年７月20日生まれ。星座はかに座で、血液型はB型だ。生まれてから順調に身長を伸ばし、体重を増やしている。早くも両親の頑健さを引き継いだか。

## 娘の学生時代

娘の小学校の通信簿を見ると、まあまあ成績は良いようである。算数が得意らしい。でも「先生からの言葉」の欄に「先生や友達の話を最後まで聞きましょう」みたいなことがいつも書いてある。

高校に入学した頃から、娘は語学に関心を持ち、進学も外国語学科を目指していた。人見知りも物おじもしない子なので、合っているかもしれない。何に対しても興味津々の娘なので、スポーツや友達付き合いなど、いつも忙しい毎日を送っていた。

## 教育方針の違い

妻は自分が厳しく育てられ、よく勉強ができたせいか、あまり子どもに対して勉強しろとうるさく言わない。どちらかというと自由でおおらかな子に育てたいようである。確かに女の子だから、かわいらしいお嫁さんになってほしいところではあるが、私は自分が学歴で苦労したせいか、ついつい「勉強しなさい」と言ってしまう。早くも小学校のときぐらいから、「そろそろお父さんは嫌われたかな」と思うことがあった。

## 娘の結婚

娘に結婚したい人がいるので、明日つれて来ると言われた。ついに、そのときが来たか。テレビドラマで「お父さんは絶対反対だ！」とか言っている映像が頭に浮かぶ。まず、なんて言葉から言おうとか、相手がこんな感じだったらこういう態度をしようとか、あれこれ考えた。

次の日、娘がつれて来た背の高い男をひと目見て、言葉を失った。髪の毛の色は黒ではない。目は灰色か青色が混ざったような色。実家はパリとのこと。つまり、娘はフランス人と国際結婚をしたいというのである。私の世代でフランス人の彼を紹介されて、驚かない父親がいるだろうか。

その後、順調に交際を続け、結婚後に娘はパリで暮らすことになった。無事に二人の孫も生まれ、幸せな毎日である。だが、娘よ、君が大学で熱心に勉強していたのはスペイン語ではなかったか。

# 【退職後の過ごし方】

## 庭いじり

最近できた趣味が「庭いじり」である。「ガーデニング」なんていうほどおしゃれではない。勝手に庭に好きなものを咲かせているレベルである。会社に勤めていた頃は、花を植えようなんて考えたこともなかった。きれいに咲いた花をデジタルカメラで撮影して作品集を作る毎日である。

## 散歩

庭いじりが好きになってから、自然に触れることも好きになった。近くの神社や遊歩道を散歩するのが楽しみになってきた。でも、興味を持つとのめり込むタイプの私は、さらに山歩き、国内の名所めぐりと散歩の範囲を広げていった。今では海外にまで散歩に行っている。先日はインドまで散歩に行ってきた。

あくまでも散歩、散歩。妻よ、怒ることなかれ。